

# 北海道浮魚ニュース

平成10（1998）年度第11号（通巻 NO. 32）

1998年8月18日

北海道立中央水産試験場	Tel：0135-23-8707	Fax：0135-23-8709
釧路水産試験場	Tel：0154-23-6221	Fax：0154-23-6225
函館水産試験場	Tel：0138-57-5998	Fax：0138-57-5991
稚内水産試験場	Tel：0162-23-2126	Fax：0162-23-2134
網走水産試験場	Tel：0152-43-4591	Fax：0152-43-4593

## ◎平成10年度北西太平洋サンマ長期漁海況予報

8月11～12日に、東北区水産研究所（塩釜市）において、平成10年度の北西太平洋サンマ長期漁海況予報会議が開催され、漁海況予報が発表されましたので、お知らせします。

### 【漁況予報】

#### ①漁場への来遊状況

漁期前半（10月上旬）までの漁場への来遊資源量の水準は、近年（1988年以降）で最も低い水準であった1996年を下回る。銘柄別の来遊資源量水準は、大型魚では1996年を上回るが、中型魚、小型魚はともに1996年を下回る。

#### ②魚体組成

漁期当初は、大型魚（特大魚を含む）主体に中・小型魚混じりで漁獲される。北上期および索餌期の調査結果では中・小型魚の割合は少なかったため、9月に入っても大型魚主体に漁獲される。漁期の進行に伴い、中・小型魚の割合は徐々に増加するが、主体は大型魚となる。

#### ③漁場位置

索餌期の魚群分布、および10トン未満船の漁況の動向からみて、解禁当初の漁場はロシア200カイリ水域内の色丹島沖暖水塊の北縁に形成される。

南下期になると魚群は色丹島沖暖水塊の東西両側を南下し、また沖合の親潮前線が例年よりもやや南偏しているため、9月に入ると漁場は道東近海のほか沖合にも分散して形成される。その後、漁場は親潮第1分枝沿いに移行し、襟裳岬沖から三陸近海へ次第

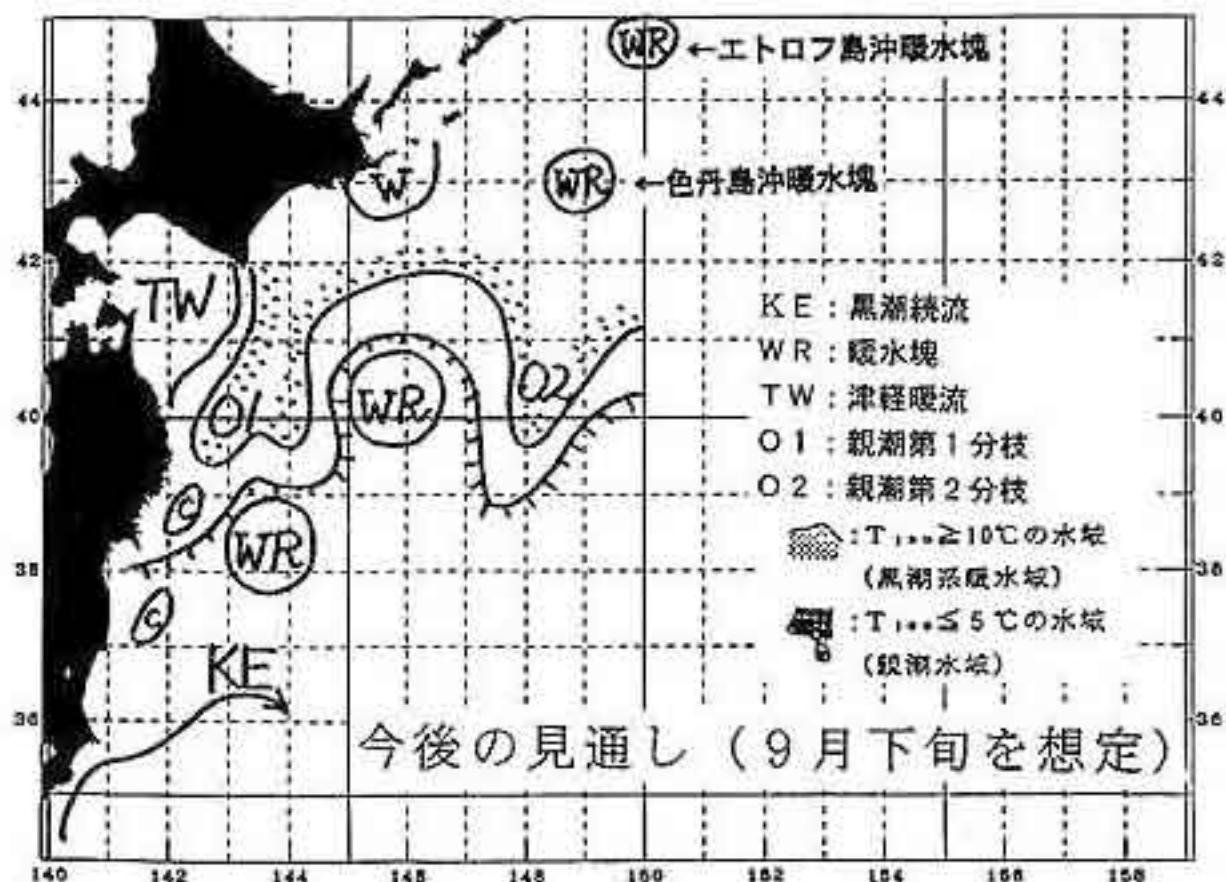
に南下する。しかし、近海のサンマ魚群の分布密度が低いため、沖合の親潮第2分枝沿いにも漁場が形成される。

### 【海況予報】

〈今後の見通し：1998年9～11月〉

- ①近海の黒潮の北限は $36^{\circ}\text{N}$ ～ $37^{\circ}\text{N}$ で推移する。
- ②黒潮系暖水の北への張出しは、 $146^{\circ}\text{E}$ 付近を中心に、平年並～やや強めに推移する。  
近海（ $146^{\circ}\text{E}$ 以西）では、11月までに $41^{\circ}\text{N}$ 付近まで張り出す。  
沖合では $146^{\circ}\text{E}$ 及び $150^{\circ}\text{E}$ 付近で $40^{\circ}30'\text{N}$ を越えて張り出す。
- ③択捉島沖の暖水塊及び色丹島沖の暖水塊は北東へ移動する。  
三陸沖暖水塊は北西に移動する。常磐沖暖水塊は北西に移動する。
- ④親潮第1分枝は平年より強めながらも三陸南部から北退し、11月には三陸北部（ $40^{\circ}\text{N}$ 以北）まで退く。親潮第2分枝の張出しは $39^{\circ}\text{N}$ 付近までである。
- ⑤津軽暖流の下北半島東方への張出しは、平年並（ $143^{\circ}\text{E}$ 付近）である。

（文責：釧路水試資源管理部）



※釧路水試 資源管理部に直通電話が付きました。  
 ○電話番号は 0154-23-6222 です。